

令和8年度入学試験問題

情報学部

学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜

小論文

(注意事項)

1. この問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはならない。
2. 問題は全部で2ページある。落丁・乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出ること。
3. 別に解答用紙が2枚および下書き用紙が2枚ある。
4. 文章はすべて解答用紙の指定された箇所に横書きで記入すること。
5. 受験番号は解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 解答時間は90分である。
7. 問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

問題 1 次の文章は、『朝日新聞 電子版(2025年5月9日配信)』からの引用(一部抜粋)である。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

ごみ収集、AIで効率化へ

ごみ収集車に設置した人工知能(AI)センサーで、ごみ排出量のデータを取得する取り組みを神奈川県鎌倉市と慶応大 SFC(湘南藤沢キャンパス)研究所などが進めている。ごみ収集の効率化や減量につなげる目的だ。

AIセンサーは2023年から取り付け始め、現在、約30台中17台に搭載している。車の後部カメラで撮影した映像から、車載のAI搭載機器で燃やすごみを袋単位で計測。収集した時間と場所のデータを研究所に送信する。ごみの映像は送信せず、プライバシーに配慮するという。

中沢仁教授(環境情報学)は「ごみ袋の数と大きさのデータをリアルタイムで取れるのが技術上の強み。詳細なごみの出方を把握することで適時・適切な政策の実施が可能になる」と話す。

市は4月から市内の七里ガ浜地区など約1万世帯で燃やすごみの戸別収集を始めた。従来のクリーンステーション(集積所)に出されたごみの量と比較し、減量効果を検証する。先行する他の自治体では、分別が進み、燃やすごみが減ったという報告がある。

ごみの量が多い地域に少ない地域の収集車を回すこともでき、「収集の効率化が期待できる」(市の担当者)という。

「朝日新聞社に無断で転載することを禁じる」
「承諾番号 26-0842」

設 問

問1 下線部の目的を達成するための具体的な方策と、その効果について、記事本文を参照して160字以内で説明しなさい。

問2 この文章では、ごみ収集作業にAI技術を導入することによりごみ排出量を減らし、さらにごみ収集作業を効率化することを目的とした取り組みが紹介されている。これらの目的を達成するために有効な、情報技術を活用したその他の方策を考え、180字以内で説明しなさい。なお情報技術としてAI以外の技術を活用するものであっても良い。

問題2 次の文章は、『令和6年版 情報通信白書』からの引用(一部改変・一部抜粋)である。

この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

能登半島地震における偽・誤情報について

能登半島地震において、SNSは情報収集手段や安否確認手段として寄与していた一方で、SNS上では、迅速な救命・救助活動や円滑な復旧・復興活動を妨げるような偽・誤情報が流通したと指摘されている。

X(Twitter Japan社[※])によれば、X(旧Twitter)における能登半島地震に関する偽・誤情報を含む投稿の主なものとして、今回の地震が「人工地震」であるとの言葉を含む投稿が約10万件、「窃盗団」(が現地に出没)に関する投稿が約200件、「支援要請」(偽の寄付を募るもの)に関する投稿が約350件、「救助要請」に関する投稿が約21,000件あったとされる。

また、日本ファクトチェックセンター(JFC)では、能登半島地震をめぐる大量の偽・誤情報の拡散を踏まえ、継続的に情報を検証し、事実確認を実施している。2024年1月27日には、災害発生時から復旧・復興など、それぞれの段階で何が話題になるかの傾向について、整理・公表した。災害時に広がる偽情報5つの類型を分類するとともに、『「志賀原発から海上に油19,800リットルが漏れ始めた」は誤り』『「仮想通貨で寄付を呼びかけるサイト」は誤り』といったファクトチェック記事を公開している。

情報通信研究機構(NICT)が開発・試験公開した災害状況要約システムD-SUMM(ディーサム)でのX(旧Twitter)における投稿分析によれば、今回の能登半島地震では、発災後24時間の間に投稿された救助を求める報告の数(総報告数16,739のうち1,091)が、2016年の熊本地震の際の報告数(総報告数19,095のうち573)と比較して倍増した。この1,091件のうち254件の投稿で矛盾報告が検出され、デマと推定できたのは104件あった。システムが分析するのはXの日本語投稿の10%であるが、熊本地震の救助を求める報告数(573)の中で、偽情報とみられたものは1件であり、今回の能登半島地震において、SNS上で偽情報がより多く投稿されていたことが分かった。(以下略)

※現在の「X Corp. Japan 株式会社」

設 問

問 災害発生時には、災害情報や避難情報を確実に取得することが重要となるといわれている。偽・誤情報を排除し、正しい情報を得るためにはどのような行動が必要になるかについて、あなたの考えを200字以内で述べなさい。